

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200143		
法人名	(有)アイシン		
事業所名	だいこんの花肥田瀬		
所在地	岐阜県関市肥田瀬2719番地1		
自己評価作成日	平成26年10月5日	評価結果市町村受理日	平成26年12月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&ji_gyosvoCd=2190200143-00&PrCd=21&VerSiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成26年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者本人の希望をできるだけ叶えられるように担当職員がそれぞれ個別での一時帰宅や外出などを行っている
また、本人の残存能力を活かした活動なども多くしており、掃除、食事作り、買物等様々な場面で利用者と職員が支え合える場面を作り、だいこんの花に必要な人であることを再確認していただいている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者個々の意向を尊重し、一人ひとりが自分主体の生活ができるように、個別の支援を大切にケアを提供している。外出希望があれば、その都度付き添ったり、食材の買出しに一緒に出かけたりしている。下見をして個別の外出計画書を作成している。開設後1年半が経過し少しずつ地域とのつながりもできて、地域とのふれあい事業で流しそうめんや忘年会を行ったり、喫茶店や美容院で住民と一時を過ごせるようにしている。職員は「ミーティング事前担当者所見」にて、利用者の現状把握と共に自分自身の介護の振り返りを行い、意識づけた介護が実践できているかを毎月全職員で確認し、質の向上に向けて話し合っている。職員が日々の気づきから出た意見は、管理者が内容を踏まえて考え方への説明を行い、質の良い介護に向けて努力している事業所である。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	明るく家庭的な雰囲気の中でその人らしさを大切にしましょうを理念に掲げ、職員一同、一丸となってこの理念に向けて様々な場面において心得ながら職務にあたっている	職員は日々の介護で理念が実践できているかを、毎月ミーティング時に振り返り、全職員で話し合っている。管理者は日々の業務で理念に基づく介護の考え方について、気づいた時に個々の職員に説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買物、運営推進会議、散歩などを通じて挨拶を交わし、会話をし、少しずつではあるが施設、利用者、職員とも地域に溶け込みつつある	地域の喫茶店や接骨院等にパンフレットを置いて地域との関りが深まるよう努力している。行事協力を婦人部に仰いだり、触れあいの機会として忘年会や行事に参加を呼びかけているが日常的な交流にまでは至っていない。	開設後1年半が経過し少しずつ地域とのつながりは整いつつあり、自治会加入に向けて話し合いを勧めている。地域との交流が日常的にできるような様々な機会での働きかけに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や、施設見学などを通じて、認知症介護についての説明、質問があれば実践内容をお伝えしたりしている 今後は地域の方(自治会単位)に向けた認知症介護説明会なども開いていきたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には色々な方に参加をして頂き、包み隠すことなく報告、連絡をしている 家族が遠慮しているのか、意見が出にくい状況があるため、そこを充実させることができれば、サービスの改善向上に繋げていけるため、会議の進行や内容に改善が必要であるとする	事業所の現況や行事予定の報告と共に地域との関り方等について情報交換している。家族が参加しやすい日時を事前にアンケートをとり開催している。メンバーの負担を考慮し、併設する事業所と同時間開催している。	地域役員や民生委員等への配慮からではあるが、事業所に合わせた話し合いを勧められたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法令、入居者への処遇に関して、不明瞭な点があった場合の相談や運営推進会議を通じて協力関係を作り、継続している	生活困難者の受け入れや制度上の疑問点等について、電話で確認したり、市に出向いて担当者に相談している。地域包括支援センターとは常時情報交換を行っている。市からの要請で介護相談員を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設長をはじめとし、職員全員が肉体的、精神的による拘束をしないということを理解し、実施しているが、法的な理解はしていないため、今後、ミーティングなどを通じて勉強する機会を作っていきたい	玄関は自由に入出入りできるように施錠せず開放している。外に出られた時は職員が後から見守ったり、一緒に付き添っている。行動を抑制する言葉にも配慮し、職員が気づいた時にその場で注意し合い拘束のないケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者(施設長)はもとより、職員全員が虐待に関して当然あってはいけないと理解しており、知らず知らずのうちに出してしまった言葉で、虐待に当たりそうな時には、職員がお互いに注意をし合い、利用者に対する虐待が発生しないように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長は他事業所で両方の制度利用に関して携わってきたが、現事業所では対象者がいないため、制度を勉強する機会がない しかし、今後対象者が現れたときのことを考え、事前に勉強しておく必要がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に介護保険制度改正による料金改正の時などは事前に説明をし、承諾書をいただいた上で利用契約書や重要事項説明書の更新手続きを行っており、これまで特に問題なく更新できている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などで意見をいただく時があるが、遠慮をされているのか、意見がなかなかでないことがあるため、事業所は利用者や家族・地域の方々に育てられている事を理解していただき、意見を出しやすい関係性や方法を見出していききたい	家族が来所時に必ず職員から声かけし、ゆっくりと話ができる場所で意見を聞いている。毎月近況を送る際に、些細な意見も言えるようにしている。家族から外出希望があり、買い物への同行を増やしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談やミーティングなどで聞くようにし、管理者はもちろん、法人代表もその場に立ち会い、職員の意見や要望・提案を直に聞き、早急性のあることから解決に向けて動いてくださっている	ミーティング事前調査表にて毎月職員の意見を聞き、職員で話し合っている。浴室の手すり設置の意見が出て改善ができた。予算の必要があったり、時間を要する内容によっては、管理者が発案者に説明している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境になるよう会社は努力して下さっていると思う 現在は職員が過少気味なので、これまで同様、評価をして頂けるとありがたいです		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護業務経験者には実践者研修を勧め、今年も1名受講をしている 法人外の研修は研修案内としてお知らせしているが、今後、法人内での社内研修等も計画していきたい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者(施設長)は協議会を通じて他事業所との関わりや交流はあるが、職員同士での交流はない 現在、管理者が関わっている他事業所の職員とも関わりを持ち、勉強会の機会も持てるとういと思う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に利用者本人と会い、面接を行っている また、センターシートを導入することにより本人だけでなく家族の困っていることや不安な事を職員全員で共有し、利用者、家族の両方とも関係性を深めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に利用者本人と共に会い、面接を行っている また、センターシートを導入することにより本人だけでなく家族の困っていることや不安な事を職員全員で共有し、利用者、家族の両方とも関係性を深めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所での介護相談も受け付けており、自社サービスが利用時期やサービス内容で適さないことがある場合などに、自社を利用しなくても他サービスに繋がられるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできることはやっていただき、職員はそれを教えてもらいながら、できないところを支援したりし、共同作業をしながら、活躍の場を作り、助け合っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設長、ケアマネージャー、それぞれの担当者が常に家族とのつながりを持ちながら、利用者を絡めた希望要望を把握し、叶えるための目標作りをし、実施、実績をあげている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅、普通っていた喫茶店など個別外出計画を立案、実施している	友人や親族が来訪時は湯茶でもてなし、ゆっくりと話ができるような場所にも配慮している。店主さんに協力依頼し、馴染みの美容院や喫茶店を利用している。帰省や墓参等は家族に協力を依頼する時もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲のよい利用者を引き離すこともなく、食事作り、洗濯等をみんなで協働できる場を作ったり、声かけをして提供している 孤立しそうな時には職員が寄り添い、無理強いをしない程度に利用者同士の関係作りについての支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去者はいるが、夫婦入居された方なので、関係はまだ切れていないが、今後そういう方が当然出てくるため、今から支援方法を職員全員と考えていきたい		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前にセンターシートを記入して頂き、それを元に本人中心の暮らしや自己選択自己決定を重視したケアを検討し、実施している	利用者の思いをじっくり聞いたり、個々の生活パターンから予測できる思いを把握している。職員は生活歴や家族から情報を得て、日常生活の様々な場面で本人が意思表示できるように働きかけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	上記に同じ		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自宅での生活スタイルをできるだけ維持しながら、残存能力の把握と活用を職員全員で共有しながら発揮できるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者に担当者をつけ、ケアマネが中心となり、モニタリングを行っている 担当者が家族との連絡を密にできる限り本人中心で現実的なケアプラン作成と実施に取り組んでいる	利用者や家族からの希望を聞き、主治医の意見も参考にしてプランを作成している。毎月全職員でモニタリングを行い課題を話し合っている。身体状況変化時は、家族とも話し合い、その都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人介護記録、介護日誌等を活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主に担当者が家族と連絡をとりあい、家族及び本人のニーズを酌み取って管理者、ケアマネに報告し、家族、本人のニーズに応えるべく努力して取り組み、実績もある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住んでいた地域の理髪店に来てもらったり、馴染みの美容院、喫茶店に行ったりと協力して頂ける地域資源は活用し、地元地域を忘れないように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に主治医を持たない方に関しては事業所の協力医を紹介しているが、かかりつけ医がいる方に関してはそれを施設都合などで変えることなく本人が信頼している医師・病院で適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診時は、家族に情報提供し、情報は口頭又は書面で報告している。協力医とはいつでも指示が得られ、FAXや電話で連絡し関係を密にしている。専門医の受診は職員が付き添う時もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に看護師がいないため、緊急時は併設している小規模多機能の看護師に見てもらっている また、お一人だけ訪問看護サービスを個別利用している方がおられ、訪問看護との連携をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	MSWとの密な連携と、施設長以下、全員が早期退院を願って見舞いに行きながら看護師に話しを聞き、情報共有するなどし、管理職だけでなく、現場職員全員が病院関係者との関係作り、利用者の退院後の生活を考えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	特に家族との話し合いを密にして、重度化した中で事業所として何が出来るかを職員間で話した内容を家族に伝え、できる限り終末期ケアに近いことができるよう取り組んでいる	入居時に事業所でみれる範囲の説明を行い、その都度家族と相談しながら支援している。これまでに看取りはなかったが、家族や職員と話し合いぎりぎりまでみる事ができた。医療職とも連携し取り組んでいく体制を職員と話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急訓練を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている	救命救急訓練や夜間想定避難訓練を年1回実施している。緊急連絡方法を掲示し、職員は周知している。衛生品の備蓄もしている。隣家や自治会に避難訓練の協力依頼を伝えているが、参加が得られていない。	非常時に落ち着いて行動できるように、避難訓練は年2回実施が望まれる。災害時に地域住民の協力が得られるよう、様々な機会に働きかけを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉は見えない身体拘束といつも職員に伝え、職員も言葉の使い方には十分きをつけて対応をしている	人前での声かけは自分の立場に置き換え、尊重した対応をすることを念頭において声かけている。テーブルに置く書類も個人情報が見えないよう配慮している。居室の表札も掲示せず、プライバシーに気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から自己選択と自己決定は職員の都合で覆すことのないようにと指導しており、職員も利用者に関わる上で決定事がある場合は利用者自身の思いを十分に尊重し取り入れた自己選択自己決定をとっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活の中にはまだまだ職員都合の事柄が多くあるが、できる限り本人ペースで過ごして頂けるよう思案し、努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服、装飾品、整髪などは声かけや介助はするが、自分で決めてもらっている また、自分の行きたい美容院へ直接出向き、自分の好みの髪型にもらうなどおしゃれをすることの楽しみを忘れないように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に台所に立つ場面、洗い物を利用者に任せて職員は少し離れて見守る場面、味付けを利用者に任せる場面など毎日のようにあり、また、食事形態についても一人ひとりのニーズに合わせた形態での提供ができています	プランターで育てた季節の野菜を利用者の希望する献立に取り入れている。利用者ができる能力を引き出しながら、買い物・下準備・配膳・後片付け等を職員と一緒にやり、会話をしながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医等から水分、栄養についての指示がある場合には遵守し、水分栄養補給を支援している 食事については、職員がバランスを見ながら献立を立てて、提供する際にはその時の状態によって食事形態をその場で変えられる支援ができています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、職員の声かけや自主的な動きにより口腔ケアを実施している できる限り洗面台に行き、鏡を見ながら自分で歯磨きやうがいをしてもらえるようにしている 自己ケアが不可能な方は職員が介助をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	バルーンカテーテルを付けている方や車椅子対応の方でもできる限りトイレでの自己排泄についての声かけを行っている	オムツ対応の利用者も二人介助でトイレ排泄を支援している。入居前はオムツ使用であった人も排泄パターンでトイレ誘導により、下着となった利用者もいる。夜間もポータブルトイレを使用せずトイレでの排泄を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬剤調整、排泄を考えた献立作りをしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の日を決めてはいるが、毎日声かけをしてできるだけ多くの方に好きな時間に入って頂けるよう努力はしているが、勤務体制を理由に、夜間の入浴ができていないので、今後夜間入浴について職員とどのようにしたら可能かを考えていきたい	一人ひとりの入浴の好みを把握し、好まない人には声かけを工夫したり、足浴に誘ったりしている。浴槽に入ることが困難でシャワー浴だった利用者に手すりを付け浴槽に入ることができるようになった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	センターシートを元にその人それぞれの寝る時間や昼間の休憩時間などを確認し、施設時間に縛ることのないように心がけて支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当職員をつけており、ある程度の薬の作用などについては理解しているが、まだまだ理解不足なところもあるため、全員が現在服薬している内容を把握して、またそれを共有していきたい		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センターシートを基本として、幼稚にならないような楽しみ事を企画し行っている 個別外出、一時帰宅など		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族にも協力をしていただき、個別外出や一時帰宅を実現させている 今後も続けていきたい	思い出の喫茶店に行きたいとの希望を聞き、職員と一緒に遠方でも外出している。家族と相談し個別外出計画を立て希望に合わせた外出や外食を楽しんでいる。車椅子の利用者も参加して、四季折々の桜見・紅葉狩り等季節感を味わえるように支援している。	

グループホーム だいこんの花肥田瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に家族に確認をし、自己管理をしている方もいる 自分の所持金を使って買い物に行ったり、喫茶店に行くこともあり、支払の際には職員も確認している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	頻繁に会いに来て下さる家族が多いので、手紙などは少ないが、電話は好きなように使用できる また、暑中見舞をみんなで書いて家族宛にだすなどの支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	刺激的な色や光を避けて、暖かみのある色を電機、壁紙などに使用している	自由な場所でソファに腰掛け、好みの時間を過ごしている。壁には利用者の手作りカレンダー・千羽鶴を飾り、落ち着き穏やかな空間としている。テーブルには手作りゴミ箱を置き、手縫いぞうきが手の届くところにあったりして、家庭的なイメージを作り出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、リビング、玄関など時には一人になりたいときになれる場所は多くあり、その場合の職員の視点もミーティングにより決まっており、安全確保、在住確認などもできている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドは備え付けがあるが、その他の物は自宅にある物をお願いしている 衣替えなども季節に合わせて本人の覚えのある物を家族が持ってきて下さる	居室からベランダに自由に出入りができ解放感がある。趣味で作った日本人形や刺子等を飾っている。自分で書いた掛け軸・使い慣れた色々な筆が置いてあり、思い出のある物を持参し安心して過ごせる環境にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング自体は柱もなく広い作りになっているが、手すりの他にテーブルや椅子、ソファなどが手すりがわりとなり、自然自立を促すような作りとなっている		